

大旦町会だより

第108号

■発行日
2022年10月1日

■発行責任者
鳴原 久

■編集・印刷
齋藤 馨



二度目のアメシロ駆除消毒

発生は昨年比で大幅に減る

八月二十一日、暑さ厳しい日でしたが、水分を補給しながら今年二度目のアメシロカシロヒトリ駆除消毒を行いました。

一回目は六月二十六日に実施しましたが、この時は以外に発生個所が少なくほっとしました。しかし、昨年は六度も実施したことから、今後多くの箇所で発生するだろうと、覚悟をしていました。しかし、その後、日が経ってから町内を巡回し

たところ、ほんの部分的な発生しか確認できませんでした。特に今までは桜土手の殆どの木に発生していましたが、今回は僅か二カ所のみであり、余りの違いに驚きました。結局今年は今回の二度目の散布だけで済みそうです。

なお、消毒液は、発生後のアメシロには効き目がありますが、予防効果はないことを改めて確認しました。

【愛宕神社の桜の木に散布を行う】



花火大会後の清掃

福島市の花火大会が開催された翌日の七月三十一日、朝六時から十一名が参加し、川東側の清掃作業を行いました。見物客が少なかつたせいもあって、放置されたごみは殆どありませんでした。この作業は市から近隣の町会に要請されるものです。



「岡部大旦児童遊び場」を除草

「岡部大旦児童遊び場」は目立たないところにあるのですが、福島市が設置したものです。九月十九日に町会役員九名が参加し、今年三度目の除草作業を行いました。

雑草は瞬く間に伸びてしまいで、付近の皆さんに迷惑が掛からないよう、今後もしっかりと管理していきます。



愛宕神社祭礼が執り行われる 桜鼓会が奉納演奏を行う

大旦愛宕神社祭礼は八月七日、春日神社佐藤宮司をお迎えして執り行われ、大旦町内の発展と家内安全・健康を祈願しました。

町内の各団体・組織が玉ぐし奉奠を行い、佐藤宮司から講話を頂き、散会となりました。

この後、日頃から熱心に練習している「桜鼓会」が奉納太鼓を演奏し、練習の成果を存分に発揮し、雰囲気盛り上げました。

また、祭礼前の七月三十日、氏子会と町会が合同で、愛宕神社境内や集会所周辺の除草と清掃を行いました。

町内散歩



第7班白鳥雄介さんの玄関脇に“となりのトトロが”



今年も桜土手の曼殊沙華が綺麗に咲きました。花壇のサルビア、ベゴニア、マリーゴールドも懸命に咲いています。集会所西側の経塚には、珍しい白い曼殊沙華が数本咲いています。



あ〜おい目をしたお人形は〜 アメリカから貰った実物です



岡山国民学校（現岡山小学校）に勤務していたある女性が、用務員さんが人形を焼却処分する直前に、「折角子どもたちのためにアメリカからやって来たこの人形を燃やすのは忍びない」と、用務員さんに口止めして自宅に持ち帰りました。祖父が陸軍の軍人であった女性の家では話すことも出来ず、隠し持っていたそうです。

この人形が遭遇し

たであるう波乱万丈の歴史と、人形の制作から輸出まで係わってくれたアメリカ人、この人形を受け入れ、子供たちと引き合わせてくれた多くの日本人、それぞれ先人たちの思いをこの人形から感じ取ることが出来ます。

福島県には三三三体が寄贈され、一八体が現存し、その内の一体が写真の人形です。十一月五日（土）六日（日）、もちずり学習センターで開催される文化祭に、大旦町会から実物と詳しい資料を展示しますので会いに行きませんか。

その頃大旦には尾形豊治さんと尾形正美さん（兩名とも名前の漢字は違うかも？）と言う模型飛行機作りの達人がいた。私たちは羨望のまなざしで尊敬していた。豊治さんは模型飛行機店から全てバラで部品を買い、胴体が七十センチ位の大きな飛行機を作っていた。胴体もプロペラも、とことん削って軽くなる。出来上がるると小学校の校庭に向かう。私は追いかける。ワインター（動力のゴムを巻く道具）でゴムにこびができるまで巻き、秋の晴れ渡った青空に放すと、ぐんぐん上昇し、高いところではばらばらと旋回し、ゆっくり降りてくる様を見て感動した。

正美さんは豊治さんから習ったのか、彼が作る飛行機も良く飛び、いつも障害物のない畑で飛ばしていた。私も行って見せてもらったものだ。三十円で売っていた小さな模型飛行機のキットも、彼の手にかかるしつかり飛んで驚いたものだ。今はお二人とも故人になりました。だが、秋になると楽しそうなお二人の姿を思い出す。【齋藤 馨】

コラム

模型飛行機作りの達人

私は小学校高学年〜中学校まで、模型飛行機を作って遊んだ。当木の羽田商店から「ジッパライトプレーン」という商品名の模型飛行機のキットを買った。確か値段は六十円だったと思う。でも、好きな割には作るのが下手くそで、うまく飛んだことがなかった。

